

2021年度 一般社団法人 大曲青年会議所

基本方針

総務広報委員会担当

副理事長 内田 清文

「なぜJ Cにいるのか」、会員数は減少の一途を辿り弱体化した組織に在籍する意味が今まさに問われていますが、我々には365日と年会費分の予算、そして大仙郷という資源、さらには仲間が未だにあります。この問いに対する答えが、我々一人ひとりがここでやりたいことであり、それぞれ自身が信じることでもあり、2021年度に起こる化学反応であるために、その触媒として半世紀続いた大曲J Cの基盤を整備する必要があります。

まずは、将来にわたって骨格を強固にするために、総会・例会等の企画・運営をはじめ会務の管理、その他の雑務全般をすることで、的確な情報共有とJ C活動・運動の効率化を図ります。そして、今後の活動をより円滑に進められるようにするために、他から評価される機会を創出することで、大曲J Cの認知度を向上させ、会員のポテンシャルを引き出します。さらに、大曲J Cの存在感を高めるために、時代に即した方法で活動や情報を効果的に記録し編集した後に適切なメディアに載せることで、広く活動を伝播させるとともにこの地域の住民からの理解と協力を得ます。また、パワーのある団体にするために、出席票を管理し、出席勧告をすることで、1人でも多くの参加者を迎え、事業を充実させます。そして、永続的に活動を展開するために、有意義なJ C説明会を行い、意欲のある会員を増加させ、大曲J Cの基礎体力を向上させます。さらに、創立45周年を迎える中和国際青年商會との友情をさらに揺るぎないものにするために、これまで通りの歓待に固執せず、コロナ禍に対応した国際交流を行うことで、交流の歴史に着実な足跡を残します。

新時代を形成する青年組織が、これまでのしがらみや時代の変化に対応できずに貧弱な組織と化している現状を打破した上で、未来の大仙郷の原動力となる青年個人が、地域にこびりついた課題を克服する風雲児として、内外問わずあらゆる場面で爪痕を残します。